

I 進路を具体的に決定するにあたって

<年内の予定>

年内に校内にて行われる進路関係の大まかな予定になります。

9月13日(水)	第3回進路希望調査 提出〆切
10月7日(土)	第2回進路説明会
10月下旬	「令和5年度都立高等学校等第一学年生徒募集人員」発表予定
10月23日(月)～10月30日(月)	三者面談
11月2日(木)	永山連携枠推薦入試希望〆切
11月8日(水)～10日(金)	第3回定期テスト
11月10日(金)	第4回進路希望調査配布(最終希望確認)
11月13日(月)	第4回復習確認テスト(最終回)
11月20日(月)	第4回進路希望調査提出〆切
12月1日(金)～7日(木)	三者面談 推薦願提出〆切(面談翌日)
12月15日(金)	入試相談
12月18日(月)	調査書類・推薦書類提出〆切

また、今後も気になる学校等について調べていくことが多くなると考えられます。これまでに引き続き調べる上で以下の点にご注意ください。

～調べる上での注意点～

※受検(験)する学校がすべて進学する可能性があるという意識をもち、第一志望以外の学校についてもよく調べること。

※入試日程・必要書類・手続きなどについては各自が責任をもって確認すること。

※今年度も新型コロナウイルス感染防止対策の影響により例年通りではない場合があるので、特に注意し、各校の資料や通知をよく読むこと。

1. 就職の手順と準備

- ① 就職希望のある場合はすぐに担任に申し出る。
- ② 希望が出た人について中学校からハローワークに入社希望書を提出する。(日野工業高等学園も同様)
- ③ 求人票が配布されたら。これを参考に、職種・地域(住み込みか通勤か)、定時制高校等への通学希望の有無について考えていく。
- ④ 年明け以降に、各事業所で選考(入社試験など)が行われる。

※知人を介しての縁故就職の場合も、ハローワークを通すことをお勧めします。

2. 高等学校等進学の手順と準備

- (1) 11月20日(月)×切りの第4回進路希望調査により進路希望の最終確認をします。
- ① 私立高校については、この時までには受験を希望する学校の見学・情報収集を終わらせておき、「募集要項」を入手しておくこと。受験する可能性のあるすべての学校の見学会・説明会等に参加してください。
 - ② 受験形態(推薦・第一志望受験・併願優遇・一般入試、および都立と私立、複数の私立の組み合わせ方など)を、担任と相談する。
- (2) 第4回進路希望調査と復習確認テストや定期テスト等の結果をもとに、学年の職員が一人ひとりの進路について検討した上で、12月1日からの三者面談を行う。
- (3) 私立高校の推薦・第一志望優遇・併願優遇受験(第二志望優遇)については、12月15日からの入試相談日に学校から郵送、または学年職員が各私立高校へ赴く。
そこで受験予定者の名簿を提出し、合格の可能性の相談を行う。
- (4) 志望の私立受験校が決まったら、出願手続き書類を各自で取り寄せて記入する。
※近年の出願に関してはインターネット出願を取り入れている学校が多いです。必ず志望校の形式を確認してください。

<例>

～家庭で行うこと～

パソコンやスマートフォンで願書をダウンロード。必要事項を打ち込む。画像を願書に貼り付けもしくは添付して送信する。受験料は振り込みやネット決済等で各自で行う。学校に作成してもらう調査書や推薦書などの書類を学校に提出する。学校が作成した書類を受け取り、期日までに郵送する。

(※「必着」なのか「消印有効」なのかを必ず確認する。)

～学校が行うこと～

出願したことを確認。提出された調査書や推薦書を作成。期日までに生徒に返却する。

※進路関係の書類に関しては、「調査書作成願」という書類に必要事項を記入の上、中学校が作成しなければならない調査書や推薦書用紙などを「進路提出用ファイル(赤いファイル)」に入れて担任に提出となります。(12月18日)が×切りです。)

※私立の学校や国立の学校・都立高専の出願書類は中学校では準備できません。

※具体的に高校を決める前に、必ず本人と保護者が高校見学・説明会等に参加し、十分な検討を行ってください。進学の可能性(受験)のあるすべての高校の事前訪問をしてください。

Ⅱ 都立高等学校受検について

※詳細は11月に配布予定の東京都立高等学校等募集案内（都教委発行）に公表されます。

1. 推薦等に基づく選抜

	出 願	検 査	発 表	入学手続
日程	<インターネット入力期間> 12/20(水) ~1/18(木) 午後5時 <書類提出期間> 1/12(金)~1/18(木) 必着	1/26(金)・ 1/27(土)	2/2(金) 8:30~(合否照会サイト) 9:30~(校内掲示)	2/2(金)、2/5(月) 合格発表時に受検番号 等で来校時間を指定

(1) 推薦に基づく選抜の種類

① 一般推薦	ほとんどすべての都立高校で行われ、成績等の明確な基準はない。調査書、及び面接・作文または小論文などを総合して合否が決定する。 ※今年度から一部の高校で集団討論を実施する。
② 文化・スポーツ等特別推薦	それぞれの都立高校が募集する項目について、個々の卓越した能力を評価し選抜が行われる。 ※「大会等での実績を記入せず、志願者の活動の実績等を証明する書類は提出しない」こととなっております。 ※「文化・スポーツ等特別推薦書」はホームページに掲載されているものを使用するため、希望者は早めに担任に申し出てください。
③ 理数等特別推薦	科学技術の根底にある理数系分野の素養を前提に、探究の過程を通して、課題を解決する力や、他者の考えから自分の考えを深めるとともに、新しい価値を生み出す創造性など、変化し続ける社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜する。 ※令和6年度入学者選抜においては、都立立川高校創造理数科、科学技術高校創造理数科において実施。
④ 連携型中高一貫教育にかかわる選抜	本校では都立永山高校志望者対象に実施。成績等の基準（P.6 参照）があり、中学校ごとに募集定員（例年9名前後）がある。

○文化・スポーツ特別推薦に出願する者は、当該校の一般推薦との併願が可能。

○理数等特別推薦に出願する者は、他の推薦に基づく選抜に出願することはできない。

○連携型中高一貫教育にかかわる選抜（永山連携）に出願する者は、他の推薦に基づく選抜に出願することはできない。

○連携型中高一貫教育にかかわる選抜（永山連携）を希望する場合、第3回進路希望調査に記入する。

(2) 応募資格 ※志望する都立高校を第1志望とする者。

① 令和6年3月に都内の中学校を卒業する見込みの者（＝新卒者）

② 在学している中学校長の推薦を受けた者

③ 保護者と同居している者で、令和5年12月31日に都内に住所（＝住民票）を有し、入学後も引き

続き都内から通学することが確実な者。(都外に転居予定がある場合は、早めに担任に相談する。)

※父母のどちらか一方が都内に志願者と同居できない場合、その理由を証明する書類が必要。

- ④ 連携型選抜は上記及び永山高校の基準を満たしているもの。

(3) 校内推薦の基準

「多摩永山中学校の推薦基準」に見合う者について学校長が推薦する。⇒ (P.15 参照)

(4) 推薦決定までの手順

- ① 都立推薦受検を希望する際、校内推薦基準を十分に考慮し判断すること。
- ② 推薦受検者としての心構え・約束事に関する「推薦願(都立高校)」を保護者・本人が提出する。
- ③ 推薦願の提出があった生徒一人ひとりについて校内推薦委員会で審査し、全職員の承認を得る。
- ④ 全職員の承認を基に、本校の校長が推薦者を決定。
※希望に添えない場合もあることをご理解ください。
※推薦決定後も、推薦者としてふさわしくない言動があった場合には、推薦を取り消すこともあります。

(5) 出願手続き

出願に必要な書類

- ① 推薦書(中学校で作成します。)
- ② 入学願書(インターネットで入力)
各家庭で必要事項を入力します。その後、学校で入力内容を確認します。確認終了後、考査料を納付。(サイト上決済または納付書)
- ③ 調査書(中学校で作成します。)
- ④ 自己PRカード(本人が作成します。)
※各都立高校の「本校の期待する生徒の姿」(この冊子は各教室に置いてあります)を参考にして本人が記入します。
※書き方は学校で指導します。
- ⑤ 入学考査料 全日制 2,200 円
出願サイト上での決済又は所定の納付書により、納付する。
納付書の場合、指定の入学考査料納付用紙で、銀行や郵便局に払い込み、領収書の画像を出願サイトにアップロードする。
※一般推薦と文化・スポーツ等特別推薦の両方を受ける生徒は、2 回分の考査料が必要。
- ⑥ 科学分野等の研究に関するレポート(A4 判 2 枚以内、様式任意) ※理数等特別推薦のみ

提出方法  **要注意!!!**

志願者の出願に必要な書類(入学願書を除く)は、中学校から都立高校に、受付期間に必着するよう、郵送により提出する。

(6) 選考方法

- ① 調査書・面接（個人・集団）・小論文または作文・実技検査・口頭試問・都立高校が必要とする資料を用いて、総合的に判断されます。
- ② 一般推薦では、原則として志願者全員に個人面接を実施。
- ③ 文化・スポーツ等特別推薦では、志願者全員に個人面接又は集団面接及び実技検査を実施。
- ④ 理数等特別推薦では、研究実績報告書に関する口頭試問を実施。
- ⑤ 永山高校連携選抜では、**面接・作文の検査を総合した成績、中学校での教育活動への取り組み状況、出願承認書、志願申告書、入学願書による志望および高校が必要とする資料**を用いて、総合的に判断されます。
- ⑥ 一部の学校ではパーソナルプレゼンテーション、自己PR等を実施しています。受験生が自身の長所・興味・関心・意欲・特技などを発表・演技・演奏などを通して表現します。表現時間はそれぞれの高校で設定されているので、十分に調べた上で準備をしましょう。
※本校では12月から、校長先生・副校長先生による面接練習が行われます。

(7) 合格者の発表と手続き書類の受け取り・入学手続き

- ① ウェブサイトでの発表と校内掲示により、合格発表が行われます。
- ② 合格発表時に受検番号等で来校時間を指定されますので、できるだけ保護者と一緒に確認し、その日のうちに入学手続きを済ませるようにしましょう。

(8) 推薦受検の留意事項

- ① 推薦受検では、合格したら必ず入学することが条件です。
- ② 合格者は入学手続き期間内に入学確約書を必ず提出してください。入学確約書を提出したら、出願済みの私立高校を始め、他のすべての入試を遠慮していただきます。
- ③ 一般推薦はほとんどの高校で行われますが、特別推薦を実施する学校は限られています。また特別推薦の基準は高校ごとに異なるため、実施する校名、種目、募集人数、実績条件、実技検査の内容等をよく確認しておきましょう。
- ④ 一度出願すると、志願変更はできません。

(9) 都立永山高校「連携型中高一貫教育に関わる選抜」について

都立永山高校と、諏訪中学校、青陵中学校、多摩永山中学校は、東京都中高一貫教育に関わる連携校であり、教育課程の連携や様々な交流を行っています。その一つとして、令和6年度入学者選抜においても永山高校を第一志望とする生徒を対象とした連携型選抜が実施されます。

この選抜は他の選抜よりもかなり早い日程で行われます。希望者は、第3回進路希望調査や10月の三者面談後の11月2日（木）までに申し出てください。

「連携型中高一貫教育に関わる選抜」に関わる諸基準・条件について

<主な基準・条件>

- ① 都立永山高校で学びたいという意欲の強い生徒
- ② 入学後も多摩市や出身中学校との連携事業に関わることができる生徒
- ③ 高校3年間、部活動に率先して取り組むことができる生徒
- ④ 生活指導上の課題がない生徒
- ⑤ 全教科の評定平均が2.8以上（評定合計25以上）の生徒
ただし、評定に「1」がないこと。
- ⑥ 多摩永山中学校の推薦基準（P.15）を満たしていること。

以上の①から⑥までの全てを満たしている生徒

※本校校長による面接を行います。希望に添えない場合があることをご理解ください。

※詳しくは担任・学年担当にお尋ねください。

2. 学力検査に基づく選抜Ⅰ 第一次募集・分割前期募集

	出願	取り下げ	再提出	検査	発表	入学手続
日程	<インターネット入力期間> 12/20(水)～ 2/6(火)午後5時まで <書類提出期間> 1/31(水)～2/6(火)必着	2/13(火) 9:00～ 15:00	2/14(水) 9:00～ 12:00	2/21(水) 集合 8:30	3/1(金) 8:30～合照会サイト 9:30～校内掲示	3/1(金)、 3/4(月) 受検番号等で 時間を区分

※上記の日程は「全日制」のものになります。「定時制」は一部時間が異なります。

「募集案内」で確認してください。

※一次募集期間における「前期選抜」と二次募集期間における「後期選抜」の2回に分けて募集を行う高等学校があります。この募集方法を分割募集といいます。後期の募集は、いわゆる欠員を補充する二次募集とは意味が異なります。

(1) 出願上の留意事項

- ① 都立高校推薦受検の合格者となり、入学確約書を提出した者は出願できません。
- ② 都立高等専門学校選抜（一般受検に先立って行われます）の合格者となり、入学確約書を提出した者は、第一次募集・分割前期募集に出願していても、受検は認められません。
- ③ 1校1コース又は1科（分野）に限り出願することができます。
（立川高校と科学技術高校の創造理数科を第一志望とする者は、同校の普通科を第二志望とすることができます。）

※志望する同一の都立高校内にある同一の学科内に2科（2分野）以上ある場合（芸術に関する学科を除く。）は、他の全ての科（分野）に志望の順位をつけて出願することができます。

- ④ 出願した高校から願書を取り下げ、他の高校に一度だけ志願変更ができます。

※一度取り下げた高校に再度出願することはできません。

※取り下げ、再提出は各自が直接高校へ行き、手続きをします。

(2) 出願手続き

出願に必要な書類

- ① 入学願書（※1）、② 入学考査料（全日制 2,200 円、定時制 950 円）、
- ③ 調査書については、推薦に基づく選抜と同じ。

※1 一橋、新宿山吹、荻窪については学校所定の様式となります。

（やむを得ずインターネット出願を行うことができない場合）

これらの学校の希望者は早めに担任に相談してください。

④ 自己PRカード

面接を実施する都立高校の志願者のみ提出。面接を実施しない高校には合格後提出。

⑤ 中学校英語スピーキングテストスコアレポート（都立高校提出用）

⑥ 自己申告書

必要な生徒のみ本人が作成する。病気などで欠席が多い等の事情を説明するための書類。

⑦ 志願申告書

定時制のチャレンジスクールには、自己PRカードではなく志願申告書を作成し提出する。

【六本木、大江戸、世田谷泉、稲ヶ丘、桐ヶ丘、小台橋、八王子拓真（チャレンジ枠）】

これらの学校の希望者は早めに担任に相談してください。

提出方法

推薦に基づく選抜の項目（P.4 参照）と同じ

(3) 学力検査

- ① 全日制は 5 教科とするが、芸術及び体育に関する学科については、国語、数学、及び英語の 3 教科。
- ② エンカレッジスクールや一部の定時制などでは、学力検査を実施せず、面接や小論文で選抜を行う。

【時間割】5教科の例

	開始 ~ 終了	時間	検査教科
集 合	8:30		
第 1 時限	9:00 ~ 9:50	50 分	国 語
第 2 時限	10:10 ~ 11:00	50 分	数 学
第 3 時限	11:20 ~ 12:10	50 分	英 語
第 4 時限	13:10 ~ 14:00	50 分	社 会
第 5 時限	14:20 ~ 15:10	50 分	理 科

※英語は最初の約 10 分間にリスニングテストが実施される。

※翌日に、面接・作文・実技検査等を実施する学校もある。

※国際高校及びエンカレッジスクールとして指定された都立高校の時間割は、各都立高校が定める。

※時計以外の機能を備えた時計、携帯電話や腕時計型の端末などの通信機器は原則持ち込まない
こととなっています。

- ③ 自身の受検校の集合時間・教科数・配点（満点）・必要な器具・持ち込みが禁止されているもの・
自校作成かどうか・面接・作文・小論文・実技検査の有無・得点と調査書点の比率を十分に調べ、
準備をするようにしましょう。

(4) 合格者の発表と手続き書類の受け取り・入学手続き

推薦に基づく選抜の項目（P.5 参照）と同じ

3. 学力検査に基づく選抜Ⅱ 分割後期募集・第二次募集

	出願	取り下げ	再提出	検査	発表	入学手続
日程	3/6(水) 9:00～ 15:00 持参	3/7(木) 9:00～ 15:00	3/8(金) 9:00～ 12:00	3/9(木) 集合 8:30	3/14(木) 8:30 合否照会サイト 12:00 校内掲示	3/14(木) 12時～15時 3/15(金) 9時～12時

※定時制の二次募集はこの後行われます。【3/21(木)出願】

※分割後期募集・第二次募集の場合、出願、取り下げ、再提出はすべて本人が直接各校に行き、手続きします。

(1) 分割後期募集・第二次募集

① 分割後期募集	あらかじめ分割後期募集の定員を定めている一部の都立高校だけが実施。
② 第二次募集	第一次募集で定員に満たなかった都立高校が実施。募集人数は数人程度。

(2) 応募資格

- ① 推薦、第一次募集・分割前期募集で高専を含め、^{こくりつ}国立、都立、私立高校を受検（験）しなかった、あるいは不合格だった者。
- ② 合格した都立高校に確約書を提出した者や合格した学校が定める入学手続きをした者の出願は認められません。

(3) 分割後期募集・第二次募集の留意事項

- ① 志望校に複数の学科等の募集がある場合、学科等を越えて、志望の順位をつけることが可能。
※第一次募集・分割前期募集とことなるので注意が必要です。
- ② 分割後期募集は必ず実施されますが、第二次募集はどの都立学校が実施するのかについては、3/4の手続き終了までわかりません。東京都教育委員会 HP でご確認ください。
- ③ 第一次募集・分割前期募集より倍率が高いことが予想されます。

(4) 選考方法

- ① 国語・数学・英語の3教科入試。
- ② 面接や作文・小論文を実施する学校もある。
- ③ 第一次募集とは総合得点の計算方法が異なる学校がある。

※エンカレッジスクールとして指定された都立高校においては、学力検査を実施しません。

【時間割】

	開始～終了	時間	検査教科
集合	8:30		
第1時限	9:00～9:50	50分	国語
第2時限	10:10～11:00	50分	数学
第3時限	11:20～12:10	50分	英語

※エンカレッジスクールとして指定された都立高校の時間割は各都立高校が定める。

4. 令和6年度入学者選抜における主な変更点

(1) 出願手続き

- ◇出願サイト上での志願者情報等を入力する入力期間の締切を、最終日の午後5時までとする。
- ◇入学願書に使用する写真については、当該年度の10月1日以降に撮影したものとする。

(2) 男女合同選抜の実施

都立高校の推薦に基づく選抜、第一次募集・分割前期募集において男女合同選抜を実施する

- ◇これまで男女別に定員を定めていた全日制普通科を含める。

(3) 集団討論について

一般推薦において、集団討論は、必要と判断した都立高校で実施する

- ◇新型コロナウイルス感染症対策のためにこれまで中止していたが、一部の都立高校で実施する。

【実施する学校】竹早 日比谷 深沢 鷺宮 西 北園 篠崎 調布南 東大和南 永山
足立工科 町田工科 東久留米総合

(4) 学力検査当日の日程

検査間の休憩時間を30分から20分にする

- ◇学力検査に基づく選抜当日の日程について、令和2年度選抜以前の形に戻る。

(5) インフルエンザ等学校感染症罹患者等に対する措置

インフルエンザ等学校感染症罹患者等に対する追々検査の廃止

- ◇インフルエンザ等で追検査を受検できなかった者又は分割後期募集を受験できなかった者のうち第一次募集・分割前期募集を受験できなかった者を対象として実施した追々検査を廃止する。
- ◇インフルエンザ等学校感染者等に対する措置の応募資格の対象から、新型コロナウイルス感染症が疑われる者を外す。

5. 昨年度の入学者選抜から継続された変更点

(1) 出願手続（入学願書等提出方法）

入学願書インターネットで入力し、必要な書類は中学校から郵送提出

- ◇受検票は、出願書類が受理された後、インターネットで各自で印刷、受験当日に持参します。

【対象】「推薦に基づく選抜」「第一次募集・分割前期募集」
(チャレンジスクール、定時制課程単位制も含む。)

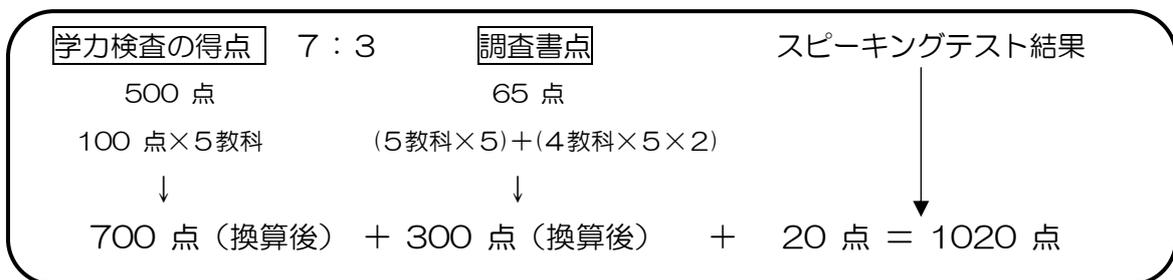
(2) 東京都中学校英語スピーキングテストの活用の結果

- 新たに、東京都中学校英語スピーキングテストの結果を入学者選抜に活用し、英語4技能のうち「話すこと」の能力をみることになります。
- 活用区分は、第一次募集・分割前期募集（エンカレッジスクール、チャレンジスクール、英語学力検査を実施しない学校等は対象外）とし、スピーキングテストのAからFまでの6段階の評価を、次の表のとおり、20点満点に点数化されます。

スピーキングテスト結果(評価)	A	B	C	D	E	F
都立高等学校入試での活用(点数化)	20点	16点	12点	8点	4点	0点

※結果は中学校から都立高校へ提出となります。

- スピーキングテスト結果の点数は、次のとおり、学力検査の得点と調査書点の合計に加え、総合得点を算出します。



※ 上記は、それぞれが満点だった場合のものです。また、学力検査の得点と調査書点との比は、7 : 3の高校と6 : 4の高校があります。

(3) 島しょの都立高校への応募資格

島しょ以外の都内に住所を有する者が、島しょの都立高校を受検する場合、父母どちらか一方と転居すること又は当該島しょに在住する身元引受人になり得る親族と同居することが確実な者及び島しょの町村が別途独自に実施する島外生徒受入選考の合格者は、応募資格を満たすこととなります。

大島海洋国際高校へ出願する者は、上記の他に大島に所在する寄宿舍に入舎する場合も応募資格を満たすこととなります。

(4) 各様式の性別欄の廃止

志願者が作成する書類の性別記入欄の廃止

◇志願者が作成する書類について、性別記入欄については原則として廃止。

Ⅲ 私立高等学校受験について

私立高校は都内・他県の学区の区別なくどこでも受験することができます。募集要項や願書など、出願に必要な書類はご家庭で入手してください。私立高校ごとにさまざまな名称の推薦制度や優遇制度があります。

以下では、一般的な制度について説明しますが、高校ごとに異なりますので必ず説明会や募集要項で確認してください。特にコロナ対応について十分にご確認ください。

1. 推薦受験制度について

(1) 推薦受験

- その学校を**第一志望とする場合のみ**利用できる制度。合格したら必ず進学することが条件
- 高校ごとに決められている**成績や出席日数等の推薦基準を満たす者**が志望し、校内推薦委員会の審査を受け、全職員で承認し、本校の校長の推薦を得られた生徒が受験できる。
- 調査書、面接、作文等で合格者を決めるが、適性検査（テスト）を実施する学校もある。

(2) スポーツ・文化部等推薦受験

- 早い時期から行われる（技能検査・セレクション）に合格すると受験資格が得られる。該当種目で高い技能と顕著な実績等が要求される。
- 高校から本校部活動への紹介によるスポーツ・文化関係の推薦は、顧問・学年で対応。顧問の先生ともよく相談しておきましょう。
- 地域チームの紹介による推薦は、高校側とチームの監督、コーチを通して話を進める。中学校は最終的に必要な書類作成を行う。この場合も本校の校長の推薦が必要になる。
- 成績も含め、入学後の活動条件が様々であるので詳しく調べておきましょう。

※（1）の推薦制度はほとんどの私立高校で実施していますが、（2）の推薦制度を実施している高校は限られています。

2. 一般受験制度について

(1) 第一志望優遇

- その学校を**第一志望とする場合のみ**利用できる制度。合格したら必ず進学することが条件。
- 高校ごとに決められている**成績や出席日数等の出願基準を満たしている者**が志望する。校内推薦委員会の審査を受け、全職員で承認する。
- 得点面の優遇があるため合格しやすくなるが、必ず合格できるとは限らない。

(2) 併願優遇（第二志望優遇）

- その高校を第二志望とする場合に利用できる制度。第一志望が都立の場合に利用することが多いが、**第一志望が私立の場合でも、利用できる高校が一部ある**。説明会・要項等で必ず確認すること。
- 高校ごとに決められている**成績や出席日数等の出願基準を満たす者**が志望できる。
- 得点面などの優遇があるため合格しやすくなるが、必ず合格できるとは限らない。
- 通常、都立高校の第一次募集・分割前期募集の発表まで、入学手続き（入学金等の支払い）を延長できる。延納の手続きや一部納入が必要な高校もある。学校ごとに異なるので、必ず確認すること。

(3) フリー受験

- 成績等の基準はなく(1)(2)の制度を利用しない方法。当日のテストの点数が重視される。都立一次発表まで手続きを延長できない学校がほとんどである。

3. 推薦受験制度を利用した場合

(1) 推薦条件

- ① 「多摩永山中学校の推薦受験者の推薦基準」(P.15 参照)を満たすこと。
- ② 本校の校長の推薦を受けること。
- ③ 高校の示す条件を満たしていること。
 - 通常は3年2学期の成績についての基準。
 - 基準は3科計、5科計、9科計など高校によって様々である。
 - 英検、漢検、数検などの資格も成績に考慮される学校がある。
※基準については各校の説明会・相談会等で詳しく教えてもらえる。受験校の説明会には必ず参加をして、確認しましょう。
 - 遅刻回数、欠席日数、校則の遵守などを基準にする学校がある。

(2) 推薦受験決定までの流れ

- ① 推薦受験者としての心構え・約束事に関する「推薦願(私立高校)」を保護者・本人が提出する。
- ② 推薦願の提出があった生徒一人ひとりについて校内推薦委員会で審査し、全職員の承認を得る。
- ③ 全職員の承認を基に、本校の校長が推薦者を決定。
※希望に添えない場合もあることをご理解ください。
※推薦決定後も、推薦者としてふさわしくない言動があった場合には、推薦を取り消すこともあります。

(3) 出願

- ① 出願に必要な書類や、受験料の納付方法は、各校の募集要項に書かれています。
- ② 出願書類はご家庭で用意します。学校では用意できないのでご注意ください。
- ③ Web 出願を行う高校が増えています。Web 出願であっても調査書等を郵送又は持参により提出しなければならいので、日程等の確認は十分にご注意ください。
- ④ 出願書類の中に調査書や推薦書等の用紙や提出用の封筒が入っている場合があります。調査書や推薦書など、中学校が作成する書類の用紙は、入手次第、随時担任に提出してください。
※調査書や推薦書等は中学校で作成し、封をして本人に渡します。開封せずにそのまま高校に提出してください。「高等学校長宛の親展扱い」なので絶対に開封しないでください。
開封したものは提出できなくなるので注意してください。
※募集要項に「公立用調査書」と書かれている場合、都立高校受検と同じ形式の用紙を使用するため、調査書用紙を提出する必要はありません。

(4) 試験

- ① 調査書、面接、作文等で合格者を決めるが、適性検査(テスト)を実施する学校もある。
- ② 面接では、身だしなみや言葉遣い、立ち居振る舞いも重視されるので留意しましょう。
※志望理由や入学後の目標等は、質問されることが多いので準備をしておきましょう。
- ③ 面接試験の形式は、グループ形式・個人面接・事前の親子同伴など様々である。
※本校では11月から1月にかけて、校長先生・副校長先生に面接練習が行われます。

(5) 合格発表

- ① 試験当日から翌々日には全て発表となることが多い。
- ② 発表方法は、校内掲示・手渡し・郵送・HP上など様々である。

(6) 入学手続き

- ① 手続き期間は1～2日間しかないことが多いので、費用の納入のことなど家庭でよく相談し、手違いのないように準備しておきましょう。
- ② 指示された期間中に手続きを完了しないと合格が取り消されてしまうので注意しましょう。

4. 一般受験制度を利用した場合

(1) 受験校決定までの手順

- ① 第一志望優遇受験や併願優遇（第二志望優遇）受験の制度を利用したい場合は、12月の三者面談後に推薦受験と同様の「第一志望優遇・併願優遇（第二志望優遇）受験願」を提出する。入試相談で高校側の了承が得られれば受験できる。
- ② 上記の制度を利用しない「フリー受験」の場合は、入試相談を通す必要はない。事前に担任と十分相談すること。

(2) 出願（推薦と同じ）

(3) 試験

面接と国語・数学・英語（3科）の学科試験が行われることが多い。

(4) 合格発表・入学手続き（推薦と同じ）

(5) 併願優遇（第二志望優遇）受験についての留意事項

- ① **入学手続きの延長期限**（都立高校の第一次募集・分割前期募集の合格発表まで）を募集要項で確認。
※必要な延納手続きを期限内に行わないと、合格が取り消される高校があります。
- ② **第一志望できる学校の制限**（都立高校だけ・私立併願可など）を募集要項で確認。
- ③ 入試相談で併願優遇受験を申し込んだ場合でも、都立推薦に合格という理由で出願しなくてよい私立高校がある。

5. 入試相談

- ① 推薦受験、第一志望優遇、併願優遇等の制度を利用するための、中学校と私立高校の教員間の相談。
- ② 入試相談は、通常**12月15日**から行われ、それぞれの私立高校で期間が決まっている。
- ③ 入試相談では、中学校が志望者名簿を作成し、高校の先生と合格の可能性を相談・確認する。
相談の結果は本人（家庭）にも連絡する。
※入試相談後の辞退はご遠慮ください。
- ④ 推薦受験、第一志望優遇、併願優遇等の制度を利用する可能性がある場合は、成績や出席日数等の基準の確認を行う必要があるため、**第3回進路希望調査**で申し出てください。
- ⑤ 第4回進路希望調査で最終的な希望の確認をする。
※推薦等の制度利用を希望する場合は、10月の三者面談で相談してください。

IV 高等専門学校、専修学校、各種学校、サポート校受験

- ◇基本的には私立高校受験についての説明と同様になります。ただし、学校によって入試日程や選抜方法が大きく異なるので、募集要項で十分確認しましょう。
- ◇国立高等専門学校ならびに都立高等専門学校は、合格すると都立高校の受検はできません。募集要項で確認をしておきましょう。募集要項や入学願書などは各自、学校に取りに行きます。
- ◇専修学校の中には私立の通信制高校などとの技能連携をするなどして高等学校の卒業資格が取れる学校が多くあります。普通高校卒業資格取得の可否、大学受験資格取得の可否等について調べておきましょう。
- ◇各種学校やサポート校は、都からの認可や公の指定を受けているのかも調べておきましょう。
- ◇卒業までに、どのような免許・資格が取れるか、費用・卒業後の進路・施設・設備なども細かく調べておきましょう。

V 他の道府県の公立高校を受検する場合

- ◇転居により本人が都民でなくなった場合、都立高校は受検できません。
(都内の私立高校は受験できる。定時制高校については職場が都内にあるとき受検できる。)
- ◇受検時間や受検方法は、東京都と全く異なるため、早めに担任にご相談ください。
- ◇道府県によっては出願時に、「都立高校等を受検しない旨の証明書」及びその他の書類が必要になる場合があります。漏れのないよう準備しましょう。

VI 調査書記載事項等の家庭通知について

- ◇都立用調査書に記載される内容は、都立受検の有無にかかわらず、1月上旬ごろに、全員の保護者宛に「調査書記載事項通知書」により通知します。

資料 1 学校推薦基準について

多摩市立多摩永山中学校 「学校推薦基準について」

1 多摩市立多摩永山中学校の推薦基準

- (1) 心身ともに健康で、前向きに勉学に取り組むとともに、学校のきまりをしっかり守り、他の生徒の模範となる者。
- (2) 志望動機が明確であり、都立高校の場合は、希望する高校の「本校の期待する生徒の姿」を十分に理解していること。
- (3) 志望動機が明確であり、私立高校の場合は、各高校から出されている推薦基準（成績、出席及び遅刻状況等）を満たしていること。
- (4) 専門学科（工業科等）を志願する者は、その学科への適性があること。
- (5) 都立高校の推薦は第一希望であり、合格したら必ず入学すること。
- (6) 私立高校の推薦は第一希望であり、合格したら必ず入学すること。
- (7) 高等学校入学後の生活においても、推薦入学であることを自覚して、学習及び特別活動等に前向きに努力し、校則を守り、他の生徒の模範となること。

2 学校推薦を受けるに当たっての確認事項

- (1) 集団生活でのマナーを守っていますか？
- (2) 集団生活でのマナーが身に付いていますか？
- (3) 授業に集中し、積極的に学習に取り組んでいますか？
- (4) 委員会活動や係活動等に責任をもって主体的に取り組んでいますか？
- (5) 「やるべきこと」をやっていますか？
- (6) 「やってはいけないこと」をしていませんか？

3 学校推薦を受けるに当たってのチェック項目

- (1) 学習活動（授業に取り組む姿勢と、活動状況）
- (2) あいさつ（相手に言われる前に、自分から。）
- (3) 言葉遣い（目上の人と、友達言葉で話していませんか？）
- (4) 服装（シャツ出し、腰パン、スカート丈、上履き、靴ひもなど。）
- (5) 装飾品（ネックレス、プレスレット、指輪、ピアスなど。）
- (6) 時間を守ること（朝の遅刻、チャイム前着席、給食準備、帰りの会への準備など。）
- (7) 委員会、清掃、給食当番

附 則

この推薦基準は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

資料2 文化スポーツ等特別推薦実施校一部抜粋 (詳細は3学年の先生まで)

※過去のものです。

学 校 名	内 容 ・ 人 数
千歳丘	合唱(男女問わず3)・硬式野球(男6)
片倉	吹奏楽(男女問わず6)・硬式野球(男6)・サッカー(男4)・陸上競技(男女問わず3)
松が谷	剣道(男女問わず3)・硬式野球(男3)・サッカー(男3)
府中	バレーボール(女3)・ハンドボール(男女問わず3)
府中西	バスケットボール(男2)・ハンドボール(男2女2)・ラグビー(男3)
府中東	硬式野球(男5)・サッカー(男4)・バスケットボール(女4)・バレーボール(女4)
日野	硬式野球(男6)・バスケットボール(男3女3)・バレーボール(女3)
狛江	硬式野球(男3)・サッカー(男3)
総合工科	硬式野球(男10)・バスケットボール(男3)
多摩工業	剣道(男女問わず5)・硬式野球(男5)
府中工業	硬式野球(男7)
科学技術	理科学研究(男女問わず3)
多摩科学技術	理科学研究(男女問わず3)
世田谷総合	サッカー(女2)・ダンス(男女問わず2)・美術(男女問わず2)
杉並総合	吹奏楽(男女問わず4)・サッカー(男2女4)・バスケットボール(女5) ・バレーボール(女2)
町田総合	バドミントン(男3女3)
若葉総合	サッカー(女4)・バスケットボール(男2)・陸上競技(男女問わず6)

資料3 都立高校の選考方法（調査書点・総合得点をだしてみよう！）

ここでは、【入試教科は5教科、学力検査と調査書の比率が7：3、その他の検査を行わない場合】を例にして、総合成績を出してみましょう。（全日制はほとんどこれになります。）

（1）換算内申を出してみよう

	学力検査を実施する教科					学力検査を実施しない教科				合計
教科	国	数	英	社	理	音	美	保体	技家	
評定										
	5教科の合計 (+ + + +) × 1 = . . . ①					4教科の合計 (+ + +) × 2 = . . . ②				①+② =

↑これが
換算内申

（2）換算内申を調査書点にしよう・・・（1）の換算内申を300点満点に拡大する

↓換算内申を分子に記入

$$\frac{65}{\quad} \times 300 = \boxed{\quad}$$

↑これが調査書点（300満点中）

（3）学力検査点を出してみよう ※第1回復習確認テストを参考にしましょう。

各教科100点満点です。5教科の合計の得点を700点満点に拡大した数値が学力検査点となります。

教科	国語	数学	英語	社会	理科	合計
得点						

↓5教科の合計得点を分子に記入

$$\frac{500}{\quad} \times 700 = \boxed{\quad}$$

↑これが学力検査点（700満点中）

（4）総合得点を出してみよう・・・（2）（3）で出した調査書点と学力検査点を合計する

$$\boxed{\text{学力検査点}} + \boxed{\text{調査書点}} + \boxed{\text{ESAT-J}} = \boxed{\text{総合得点}}$$

←これが総合得点（1020点満点中）

この例ではその他の検査は行わないため、総合得点＝総合成績となり、この点数で合否を判定します。

(様式10) (A4判)

調 査 書

- 海外帰国生徒対象等の併用
(該当するものを○で囲む。)
- 1 海外帰国生徒対象
 - 2 引揚生徒対象
 - 3 在京外国人生徒対象
 - 4 都立産業技術高等専門学校

※学籍番号	コース・科(分野)・部
一般課程	
文化スポーツ等 特別課程	
理系等特別課程	
一般課程 (変更前)	
一般課程 (変更後)	

(注) ①半角を訂正したときは、公印を用いてその旨を明らかにする。
②※印の欄には記入しない。

成績一覧表の番号 成績一覧表の提出の有無 有・無

フリガナ	性別	年 月 日 生	年 月 日 学	年 月 日 卒
氏名		転入学等	中学校から転学	卒業見込・卒業

教科	国語		社会		数学		理科		音楽		習字		美術		保健体育		技術・家庭		外国語(英語)		総合的な学習の時間の内容及び評価
	知識・技能	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	主体的に学習に取り組む態度																	
観点別学習状況																					
評価																					
評定																					

諸活動の記録

記載事項に相違ありません。
年 月 日 記載者氏名 [電話番号]

[学校所在地] [学校名] 校長名 公印

[学校番号]

中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)結果

(注意) 学校名にのみフリガナを付ける。[学校番号]は、都内公立の中学校の号記入する。
[学校番号]は、東京都立高等専門学校者選抜試験要綱別表10を参照すること

メモ



